

キャリアコンサルタントの紹介

待ったなしの人口減少、技術革新、グローバル化…
20年後も一人ひとりが輝くために、
いま日本にはキャリアコンサルタントの力が必要です。

※「働き方の未来2035:一人ひとりが輝くために」報告書(2016年8月 厚生労働省)より引用

キャリアコンサルタントとは

2016年4月より国家資格になりました。キャリアコンサルタントは登録制(5年の更新)のいわゆる名称独占資格です。相談者ご本人の興味・適性の明確化や職業生活の振り返りを通じて、職業生活設計の支援や職業の選択、スキルアップについて、意欲の向上を促し、自己決定を後押しする支援を行う専門家です。

国の「第10次職業能力開発基本計画」によると、労働者の主体的なキャリア形成推進のため国家資格キャリアコンサルタントによるキャリアコンサルティングの実施や、女性・若者・中高年齢者・非正規雇用労働者の職業能力開発におけるキャリアコンサルティングの機会の確保が謳われており、また2024年度末に達成すべき目標としてキャリアコンサルタント養成数(延べ数)10万人が掲げられています。その活躍の場(活動領域)は、人のライフ・イベントの様々なタイミングで生じるため多岐にわたります。

「100年のライフキャリア」 「働き方改革」

人生100年と言われるようになりました。実際には健康年齢である80歳くらいまで、仕事に就くことが求められています。過去にはなかった長いキャリアを考えるためには、何が必要なのでしょう?自分を知ること、他者を知ることの基礎的なスキルがキャリアコンサルタントの勉強の中にはたくさんあります。

AI時代に突入

すでに多くの仕事が人工知能に代わっています。その進歩は目覚ましく、5年先を予測することも困難です。そんな社会の中で、どうしても必要なのは「自分の軸」です。価値観といってもいいでしょう。キャリアコンサルティングは、自分や他者の価値観に気づき、自らの思いや考えで行動できるように支援します。

予測がつかない未来に、
キャリアコンサルタントが必要です

学習指導要領が 大きく変わる

教育現場が変わろうとしています。そこには、今までなかった「正解のない問」が出現します。知識や経験のほかに「自分軸」をもって答えを出すことが求められているのです。キャリア教育の場面でも、先生支援の場面でも、キャリアコンサルタントの能力は大いに活かされます。

さらなるグローバル化へ

多くの外国人が日本を訪れ、生活を始めています。今後、ますます増えていくでしょう。異文化コミュニケーションで大切なのは「相手を受け入れること」です。異なった価値観を認めることです。共感力を身につけることです。それは、まさにキャリアコンサルタントの最も得意とする能力なのです。